



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

本書は、英語による Crédit Agricole S.A. 2013 年度第 3 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2013 年 11 月 7 日 モンレージュ

2013 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月間累計の業績結果

健全なファンダメンタルズに基づいた堅調な業績

- フランス国内のリテール・バンキングにおける業績の伸び
- リスク関連費用の改善
- 費用削減の継続

クレディ・アグリコル・グループ*

2013 年度第 3 四半期純利益グループ帰属分:14 億 3,300 万ユーロ

(2012 年度第 3 四半期:-22 億 600 万ユーロ)

2013 年 9 ヶ月累計純利益グループ帰属分:38 億 4,300 万ユーロ

(2012 年 9 ヶ月累計:-5 億 3,500 万ユーロ)

2013 年 9 月 30 日現在のバーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオ:10.5%

2013 年 9 月 30 日現在の利用可能現金準備金:2,520 億ユーロ

* クレディ・アグリコル S.A. 及び地域銀行の 100% を含みます。2012 年は、コンプレックス・デリバティブの一部の評価変更に関する修正再表示。

クレディ・アグリコル S.A.**

2013 年度第 3 四半期純利益グループ帰属分:7 億 2,800 万ユーロ(予定されるニューエッジ (Newedge) の売却の影響額を含みます)

(2012 年度第 3 四半期:-28 億 5,100 万ユーロ)

2013 年 9 ヶ月累計純利益グループ帰属分:18 億 9,300 万ユーロ

(2012 年 9 ヶ月累計:-24 億 8,400 万ユーロ)

2012 年度第 3 四半期比で安定した税引前利益

営業費用の減少:2012 年度第 3 四半期比 1.8%減

リスク関連費用の低下:2012 年度第 3 四半期比 14.5%減(特殊要因を除く)

ティア 1 レシオ:10.4%;コア・ティア1レシオ:9.4%

** 2012 年は、IFRS 第 5 号に従ったエンボリキ、シュブルー、CLSA、ニューエッジの再分類とコンプレックス・デリバティブの一部の評価変更に関する修正再表示。

クレディ・アグリコル・グループ

クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、2013 年度第 3 四半期が 14 億 3,300 万ユーロ、2013 年 9 ヶ月累計では 38 億 4,300 万ユーロとなりました。この後者の数字は、エンポリキの売却に関連する損失により純利益がマイナスとなった 2012 年度同期の数字と比較できません。

2013 年度第 3 四半期の業績は、当グループの事業全体の良好な回復力を反映するものです。信用リスク関連の既存社債、ローン・ヘッジ及び特定取引の再評価に関する修正再表示後、2013 年度第 3 四半期の営業総利益は前年同期比で 1.2%減少し、税引前利益は同 2.0%増加しました。

2013 年 9 ヶ月累計期間のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、38 億 4,300 万ユーロとなりました。既存社債及び特殊要因を除いた比較可能ベースでは、純利益グループ帰属分は 2012 年度同期比で 2.9%減少しました。ただし、税引前利益は 2.5%増加しました。

当グループは、個人と法人の双方の顧客ニーズに応え、リテール・バンキングにおいて堅調な事業水準を維持しました。フランス国内の当グループ支店ネットワークによる新規貸付の伸びによって、貸付残高は 2012 年 9 月から 2013 年 9 月までの期間に 0.7%増加し、また、オン・バランスシート預金は同期間に 4.8%増加しました。

地域銀行は、貸付(特に住宅ローン)を更に増やして残高は前年同期比 2.4%増となったほか、預金の受け入れも増やし、生命保険(預金型)が 3.6%増、オン・バランスシート預金が 4.1%増となりました。その結果、預貸比率が引き続き改善され、2013 年 6 月末現在の 126%から 9 月末現在では 122%に縮小しました。純利益グループに対する地域銀行からの寄与分(100%)は、当第 3 四半期が 9 億 2,500 万ユーロ(前年同期比 8.4%増)、9 ヶ月累計では 27 億 6,600 万ユーロ(前年同期比 2.9%増)となりました。

クレディ・アグリコル S.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは、「われわれのリテール・バンキング・ネットワークのダイナミズムのおかげで、当グループがフランス経済の金融部門で中心的な役割を果たしていることがあらためて証明されました。この実績は、改善の兆しが見えるものの現在も非常に困難な経済情勢の中で達せられたことを考えると、なおさら注目に値します」と述べました。

クレディ・アグリコル S.A.の CEO ジャン・ポール・シフレも、「これらの結果は、2013 年の最初の 2 四半期の継続として見るべきものです。結果は、バランスシートの強化を目指すわれわれの継続的な姿勢と当グループの適応を反映しています。われわれの業績は、戦略面での選択の適切性とわれわれのモデルの強さを、四半期を追うごとにはっきりと示しています」と述べました。

ソルベンシーに関しては、2013 年 9 月 30 日現在のコア・ティア 1 レシオは、2013 年 6 月 30 日現在よりも 65 ベーシス・ポイント上昇して 11.9%となりました。

当グループのバーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオは、2013 年 6 月 30 日現在の 10.0%に対して 2013 年 9 月 30 日現在では 10.5%でした。

クレディ・アグリコル・グループのレバレッジ・レシオは、2013 年 9 月末現在で 3.5%でした¹。

¹ バーゼル 3 完全適用後コア・ティア 1 と既存のティア 1 規制適用除外 (grand-fathered) ; デリバティブとレボについては規制上

クレディ・アグリコル・グループは、当第 3 四半期も引き続き流動性ポジションを強化しました。長期資金運用に対する長期資金調達源の 9 月末現在の超過額は、6 月末現在を 70 億ユーロ上回る 580 億ユーロでした。流動性準備金は 2,520 億ユーロに達し、短期の市場資金 (1,500 億ユーロ) を十分 (168%) にカバーしました。

クレディ・アグリコル S.A.

2013 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の業績見直しのために、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコル S.A. の取締役会が 2013 年 11 月 6 日に開かれました。

2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、7 億 2,800 万ユーロでした。これは、主にエンボリキの売却に関連する損失を記録した 2012 年度第 3 四半期の数字とは比較できません。この結果は、戦略的金融取引の合計額 +3 億 400 万ユーロと、当グループの信用リスクに関連する既存社債の再評価にかかわる項目の正味金額 -1 億 9,300 万ユーロを含んでいます。これら 2 つの項目の修正再表示後、当第 3 四半期の純利益は 6 億 1,700 万ユーロとなりました。

戦略的金融取引は、ブローカレッジの完了に関係するものです。第 2 四半期におけるシュブルーの売却に続いて、7 月末に CLSA が売却されて 3 億 2,000 万ユーロの売却益が生じ、また、ニューエッジに対する持分の売却の準備によって -1 億 5,500 万ユーロのマイナス影響額が生じました。更に、クレディ・アグリコル S.A. は、非中核持分投資からの撤退を進めてバンキンターに対する持分を売却し、これにより 1 億 4,300 万ユーロの売却益を生みました。

上記項目の修正再表示後、当第 3 四半期の純利益は以下を反映しています。

- 好調な業績に支えられたフランス国内のリテール・バンキングからの寄与分が増加し、2013 年度第 3 四半期は 10.3% 増 (顧客預金は 3.5% 増、貸付残高は 0.7% 増) となりました。
- 持続的な低金利環境と制約を強める規制環境の下での資産管理事業の強み。この部門のすべてのセグメントによる管理資産は、市場と通貨による 220 億ユーロのプラス影響額によって 9 ヶ月累計で 270 億ユーロ増加しました。クレディ・アグリコル S.A. の業績に対するこの事業の寄与額は、3 億 8,300 万ユーロです。
- クレディ・アグリコル S.A. の収益に対する資本市場活動の低下の限定的影響 (-2.0%)。債券事業では、収益は 20.6% 減少しましたが、CACIB 事業のプロフィールの変化の結果として当グループの収益全体の 8% を占めるにとどまりました。
- 順調に進められている MUST プログラムによる継続的な費用削減 (当第 3 四半期は前年同期比で -1.8%)。
- すべてのファイナンス事業と特にリテール・バンキングにおけるリスク関連費用の着実な改善 (当第 3 四半期は前年同期比 14.5% 減)。

こうした好ましい展開のおかげで、税引前利益は 2012 年度第 3 四半期の比較可能純利益とほぼ同じ 9 億 4,300 万ユーロとなり、当グループのファンダメンタルズの健全性を裏付けました。これは、当グループの 2 つのホームマーケットであるフランスとイタリアの依然として困難な経済環境下で達成したものです。

2013 年 9 ヶ月累計の純利益グループ帰属分は 18 億 9,300 万ユーロに達しました。特殊要因の修正再表示後、営業総利益の 5.4%の減少とリスク関連費用の 15.8%という大幅減少によって、税引前利益は 2.4%増となりました。

クレディ・アグリコル S.A.は、当第 3 四半期も引き続きバランスシートを強化しました。

コア・ティア 1 ソルベンシー・レシオは、2013 年 6 月末現在の 8.6%から 9.4%へと上昇しました。この顕著な上昇は、リスク・ウェイト資産の減少(-160 億ユーロ)、有機的資本生成(余剰金と売却処分のプラス影響)、及び保険の取り扱いの変更によるものでした。

2014 年 3 月 20 日の「インベスター・デー」に発表を予定する中期計画の準備として、クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の資本構造及びバーゼル 3 への進路が、取締役会会合で提示されました。それらは、クレディ・アグリコル S.A.を含めてすべてのグループ構成部分を今後も強化するという当グループの不変の目標を裏付けるものです。

クレディ・アグリコル・グループ及びクレディ・アグリコル S.A.のバーゼル 3 完全適用後 CET1 目標を以下に示します。

	1 st January 2014	31 December 2014	31 December 2015
Crédit Agricole Group	11.0%	12.0%	13.0%
Crédit Agricole S.A.	7.8% to 8.0%*	8.8% to 9.0%	>9.5%

免責事項。上記のレシオは、一連の前提に基づくものです。これらの各日付における実際のレシオは、クレディ・アグリコル S.A.とクレディ・アグリコル・グループの将来の純利益(基本的に不確定要因に左右される)など一連の要素に依存します。

* エンポリキ株の売却による損失の非課税所得控除による最大-25 ベーシス・ポイントを含みます。クレームは進行中であり、実績(track)には反映されていません。

これらの数字は、CRDIV に準じたクレディ・アグリコル・アシュアランスの資本金と準備金の 370%ウェイト付け、及び地域銀行とクレディ・アグリコル S.A.の間での 340 億ユーロの特定保証(Switch)の供与を考慮したものです¹。また、35%の配当性向と、クレディ・アグリコル S.A.が 9%の完全適用後最低 CET1 レシオに達するまでは株式配当を選ぶという SAS Rue la Boétie の約束を考慮しています。

バーゼル 3 レシオへのこの進路は、クレディ・アグリコル・グループの非常に高いソルベンシーを物語るものであり、これは、システム上重要なグループとしての地位ゆえの追加的な規制要件を含んでいません(われわれは、1.5%まで見込んでいます)。クレディ・アグリコル S.A.は、今後 2 年間で CET1 が 9.5%を上回ることを目標としており、この目標は、当グループ独自の特性とその優勢なテール・バンキング事業にふさわしいものです。

CET1 の目標のほかに、バーゼル 3 の下でのクレディ・アグリコル・グループ及びクレディ・アグリコル

¹ ACPR の承認を前提とします。

S.A.の資本構造目標として、規制の強化があります。2015 年の総資本比率目標は、クレディ・アグリコル・グループが 16.5%、クレディ・アグリコル S.A.が 15.0%です。

	Crédit Agricole Group		Crédit Agricole S.A.	
	2018 regulatory requirement	Target 31 Dec. 2015	2018 regulatory requirement	Target 31 Dec. 2015
CET1 (fully loaded)	7.0%+ 1.5% G-SIFI additional requirement	13.0%	7.0%	>9.5%
Additional Tier 1 (grandfathered*)	1.5%	1.5%	1.5%	2.0%
Tier 2 (grandfathered*)	2.0%	2.0%	2.0%	3.5%
Total capital funds	12.0%	16.5%	10.5%	15.0%

免責条項。上記のレシオは、一連の前提に基づくものです。これらの各日付における実際のレシオは、クレディ・アグリコル S.A.とクレディ・アグリコル・グループの将来の純利益(基本的に不確定要因に左右される)など一連の要素に依存します。

* ACPR が監督するフランスの銀行に適用される CRR/CRD4 ルールに関するクレディ・アグリコル S.A.の理解に基づく段階的計算。

レバレッジ・レシオは、クレディ・アグリコル S.A.と地域銀行の間のグループ内ファイナンスを反映させるために、グループレベルで管理されています。2018 年 1 月 1 日時点の目標は 5%です。

当グループはその構成のおかげで、定期的に配当を支払いながら資本を徐々に強化するという 2 つの目標を同時に達成することができます。

社会的・環境的責任: フランス初の資産運用会社であるアムンディが、その SRI アプローチに関連するサービス・エンゲージメントに対して AFNOR 認証を受ける

アムンディは、社会的に責任ある投資(SRI)の分野でフランス国内のリーダー的企業であり、660 億ユーロを超える資産を運用しています¹。アムンディは、AFNOR Certification が確立した「SRI アプローチポートフォリオ管理における環境・社会・ガバナンス基準」に関して、最初の「サービス・エンゲージメント認証」を取得しています。この認証によってアムンディは、内部監視システムを介した統制を確保しつつ、サービス・エンゲージメントに関する主張(情報、ガバナンス体制、専門知識の保証、データ・トレーサビリティ、応答性など)を顧客に対して行うことができる初の資産運用会社となっています。

アムンディは、クレディ・アグリコル S.A.の子会社であり、その社会公約を戦略の柱の 1 つにしています。そうしたことからアムンディは、持続可能な開発及び社会的便益という基準を投資方針に取り入れるつもりです。アムンディは、責任ある金融の先駆者であり、1989 年に最初の倫理ファンドを立ち上げ、2006 年には国連責任投資原則(PRI)に署名しました。アムンディは、社会的に責任ある企業として行動し、SRI の拡大を約束しています。その目標は、2 年以内に 1,000 億ユーロの資金を運用することです。

¹ 2013 年 6 月末現在。

決算スケジュール

2014年2月19日	2013年度第4四半期及び通年決算発表
2014年3月20日	中期計画の提示
2014年5月7日	2014年第1四半期決算発表
2014年5月21日	年次株主総会
2014年8月5日	2014年第2四半期決算発表
2014年11月6日	2014年第3四半期及び9ヶ月累計決算発表

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-13	Change Q3/Q3*	9M-13	Change 9M*/9M**
Revenues	3,966	+21.6%	12,028	(5.3%)
Expenses	(2,806)	(1.8%)	(8,409)	(2.6%)
Gross operating income	1,160	x2.9	3,619	(10.9%)
Cost of risk	(653)	(32.2%)	(2,097)	(22.1%)
Operating income	507	nm	1,522	+11.0%
Equity affiliates	282	x15.0	868	+31.7%
Net income on other assets	(2)	nm	20	(69.5%)
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	787	nm	2,410	+58.1%
Tax	(131)	nm	(410)	(33.0%)
Net income on discontinued operations	167	nm	166	nm
Net income	823	nm	2,166	nm
Non-controlling interests	95	+43.9%	273	+93.4%
Net income Group share	728	nm	1,893	nm

* 2012年度の業績はIFRS第5号に従ったエンポリキ、シュブルー、CLSA、及びニューエッジの記録と一部のコンプレックス・デリバティブ取引の評価変更について、修正再表示を行ったものです。

** 2013年度の最初の2四半期の業績は、IFRS第5号に従ったニューエッジの記録について、修正再表示を行ったものです。

クレディ・アグリコル S.A.の**収益**は、2013年度第3四半期が40億ユーロ、2013年9ヶ月累計では120億ドルでした。2013年度第3四半期の収益は、合計1億5,600万ユーロの特殊要因を含んでいます(2012年度第3四半期は-10億5,300万ユーロ)。これらの特殊要因は以下のもので構成されています。

- クレディ・アグリコル CIB の既存社債及びユニット・リンク型保険契約に関する負債の再評価に加えて、法人営業及び投資銀行業務における DVA 及びローン・ヘッジ。合計で2億9,900万ユーロ(2012年度第3四半期は-10億5,300万ユーロ)。
- 2013年、バンキンターの残存持分の売却益が+1億4,300億ユーロ。税金への影響はなし。

営業費用は、クレディ・アグリコルの不動産部門における自主早期退職制度のために2,000万ユーロを引き当てたものの、2012年度第3四半期を5,200万ユーロ(1.8%)下回る28億ユーロでした。これは、費用削減プログラムの強化を反映して3四半期連続の節減となりました。費用削減プログラムは、2012年9ヶ月累計期間と比べて2億2,600万ユーロの節減を生み出しており、これにはMUSTプログラムの下での1億5,500万ユーロが含まれます。当第3四半期における費用の低下(前年同期比)は、クレディ・アグリコル CIB、クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスにおける事業適応計画とカリパルマの自主早期退職制度、さらにエンポリキ、CLSA、シュブルーの売却に関連する連結範囲

の変更に伴う平均雇用者数(常勤従業員)の10%減少と合致するものです。範囲の変更を除くと、雇用人数は3%減少しました。

総じて、**リスク関連費用**は引き続き抑制され、2012年度第3四半期と比べて32.2%(エンポリキを除くと14.5%)減の6億5,300万ユーロでした。これは、年率で残高の59ベース・ポイントであり、これに対して2012年度第3四半期は60ベース・ポイント(エンポリキを除く)でした。フランス国内のリテール・バンキングでは、残高に対するリスク関連費用は地域銀行(19ベース・ポイント)とLCL(25ベース・ポイント)が共に低い水準に留まりました。カリパルマでは、2013年度第3四半期のリスク関連費用は前年同期比で6.2%増でしたが、2012年度末以降は四半期ごとに着実に縮小しています。専門業務のリスク関連費用は、消費者金融、リース・ファイナンス及びファクタリングにおいて低下しています。アゴスでは、2012年度に多額の引当金が設定された後はリスク関連費用が顕著な改善を示し、2013年度第2四半期の2億2,400万ユーロから2013年度第3四半期には2億400万ユーロへと低下しました。法人営業及び投資銀行のリスク関連費用は、ファイナンス活動において引き続き抑えられており、残高の13ベース・ポイントでした。

不良債権(顧客とのリース・ファイナンス取引を除く)は170億ユーロに達しました。これは、顧客及び銀行間の総ローン残高の4.1%に相当し、それに対して前年は3.4%でした(エンポリキ、シュブルー、CLSA、及びニューエッジを除く)。不良債権は、特定引当金によって57.9%までカバーされ、それに対して2012年9月30日現在では56.9%でした。一般引当金を含めると、2013年度第3四半期の不良債権引当率は73.8%でした。

当第3四半期の**関連会社の収益**は、2012年度第3四半期の1,900万ユーロ(バンキンターの連結除外からの-1億9,300万ユーロの影響額を含む)に対して2億8,200万ユーロでした。地域銀行の寄与額は、前年同期比11.8%増の2億3,500万ユーロに達しました。

税引前利益は、2012年度第3四半期が10億7,000万ユーロの損失(アゴスに関する5億7,200万ユーロののれん減損費用及びバンキンターの連結除外による影響)であったのに対して7億8,700万ユーロとなりました。

全体では、2013年度第3四半期のクレディ・アグリコル S.A.の**純利益グループ帰属分**は7億2,800万ユーロでした。既存社債の再評価、DVA running、及びバンキンターの処分による売却益に関する修正再表示後の純利益は、2012年度第3四半期の修正再表示後の純利益7億4,900万ユーロに対し6億1,700万ユーロとなりました¹。

ソルベンシー(パーゼル 2.5)

2013年9月30日現在のコア・ティア1レシオは、2013年6月30日現在の8.6%に対して9.4%となり、当期中に74ベース・ポイント改善しました。ティア1レシオは、2013年6月30日現在よりも40ベース・ポイント高い10.4%、グローバル・レシオは2013年6月末現在の15.0%から2013年9月末現在では15.4%へと上昇しました。

¹ 既存社債の再評価、ローン・ヘッジ(CPM)、エンポリキの売却、証券会社の影響、アゴスに関するのれん減損、及びバンキンターの連結除外を除く。

有機的資本生成(当四半期の余剰金及びバンキーターと CLSA の売却によるプラス影響を含む)は、コア・ティア 1 の上昇に 27 ベーシス・ポイント寄与しました。

レシオの上昇は、1 つには、コア・ティア 1 に対して 41 ベーシス・ポイントを加えた保険の取り扱いの変更によるものです。念のため記しますと、CRD4(バーゼル 3)が定めるルールが 2014 年 1 月 1 日から適用されるまでの間、金融コングロマリットの取り扱いに関する移行規則が 2013 年 1 月 1 日より適用されています。9 月 30 日現在の取扱いは次の通りです。すなわち、保険会社の資本金の 370% リスク・ウェイト付け(6 月 30 日現在と同じ)、ティア 1 資本金からの余剰金の控除(6 月 30 日現在と同じ)、及びティア 1 資本金から 50%とティア 2 から 50%のハイブリッド債の控除(6 月 30 日現在、370%のウェイト付け)となります。

リスク・ウェイト資産は、2013 年 6 月 30 日現在の 3,260 億ユーロを下回る 3,100 億ユーロでした。この減少の大半は、保険の取り扱いの変更によるものでした。

ソルベンシー(バーゼル 3)

クレディ・アグリコル S.A.は更に、2014 年 3 月 20 日に発表する予定の中期計画「クレディ・アグリコル 資本金の構成 - バルゼル 3」コンポーネントを提示しています。

バーゼル 3 完全適用後 CET1 目標を以下に示します。

	1 st January 2014	31 December 2014	31 December 2015
Crédit Agricole S.A.	7.8% to 8.0%*	8.8% to 9.0%	>9.5%
Crédit Agricole Group	11.0%	12.0%	13.0%

免責事項。上記のレシオは、一連の前提に基づくものです。これらの各日付における実際のレシオは、クレディ・アグリコル S.A.とクレディ・アグリコル・グループの将来の純利益(基本的に不確定要因に左右される)など一連の要素に依存します。

* エンボリキ株の売却による損失の非課税所得控除による最大 25 ベーシス・ポイントを含みます。クレームは進行中であり、実績には反映されていません。

これらの数字は、デンマーク妥協(the Danish compromise)に準じたクレディ・アグリコル・アシユアランスの資本金と準備金のウェイト付け(370%)、及びリスク・ウェイト資産における地域銀行とクレディ・アグリコル S.A.の間での 340 億ユーロの特定保証(Switch)の供与を考慮したものです¹。また、35%の配当性向という目標と、クレディ・アグリコル S.A.が 9%の完全適用後最低 CET1 レシオに達するまでは証券配当を選ぶという SAS Rue la Boétie の約束を考慮しています。2014 年 1 月 1 日時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の CET1 の計算に用いられた他の前提は、www.credit-agricole.com/en/Investor-and-shareholder/Financial-reporting/Credit-Agricole-S.A.-financial-results で入手可能なプレゼンテーションのスライド 9 から 12 に詳しく記されています。

2014 年末及び 2015 年末の目標は、一方では有機的資本生成を通じて、また他方では、既に特定されている資産処分及びバランスシート操作によって達成されます。

2013 年 9 月 30 日現在、クレディ・アグリコル S.A.のバーゼル 2.5 コア・ティア 1 レシオは 9.4%でし

¹ ACPR の承認を前提とします。

た。2014年1月1日時点でのバーゼル3完全適用後 CET1 レシオへの移行を可能にする主な影響は、以下の通りです。

- － バーゼル3の影響:-198 ベーシス・ポイント
- － 株主貸付の償還及び T3CJ:-45 ベーシス・ポイント
- － 保険の取り扱い:デンマーク妥協への移行と Switch のステージ2の実施¹:+88 ベーシス・ポイント

目標資本構造を以下に詳しく記します。

	Crédit Agricole Group		Crédit Agricole S.A.	
	2018 regulatory requirement	Target 31 Dec. 2015	2018 regulatory requirement	Target 31 Dec. 2015
CET1 (fully loaded)	7.0% + 1.5% G-SIFI additional requirement	13.0%	7.0%	> 9.5%
Additional Tier 1 (grandfathered*)	1.5%	1.5%	1.5%	2.0%
Tier 2 (grandfathered*)	2.0%	2.0%	2.0%	3.5%
Total capital funds	12.0%	16.5%	10.5%	15.0%

免責条項。上記のレシオは、一連の前提に基づくものです。これらの各日付における実際のレシオは、クレディ・アグリコル S.A.とクレディ・アグリコル・グループの将来の純利益(基本的に不確定要因に左右される)など一連の要素に依存します。

* ACPR が監督するフランスの銀行に適用される CRR/CRD4 ルールに関するクレディ・アグリコル S.A.の理解に基づく段階的計算。

クレディ・アグリコルは、その特有のビジネスモデルによって構造的に資本金を生み出します。第一に、地域銀行はそれぞれの利益の大半を留保します。第二に、クレディ・アグリコル S.A.は、その中期計画の持続期間に亘って利益の35%を配当として支払うことを目指しています。SAS Rue la Boétie は、クレディ・アグリコル S.A.が9%の完全適用後最低 CET1 レシオに達するまでは証券配当を選ぶことを約束しています。当グループ全体は、資本金の配分に一定の柔軟性を有しています。そのため、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの-15 ベーシス・ポイントまでは地域銀行に代わって一定の持分投資を実行します。反対に、地域銀行とクレディ・アグリコル S.A.の間の特設保証(Switch)の実施により、クレディ・アグリコル S.A.は、約190 ベーシス・ポイントの所要資本金を地域銀行へ移転します。レバレッジ・レシオは、クレディ・アグリコル S.A.と地域銀行の間のグループ内ファイナンスが反映されるよう当グループのレベルで管理されます。2018年1月1日現在のクレディ・アグリコル・グループのレバレッジ・レシオ目標は5%です。

流動性

2013年9月末現在におけるクレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金は、2013年6月末現在の1兆450億ユーロに対して1兆490億ユーロでした。

¹ ACPR の承認を前提とします。

当グループが市場のカウンターパーティーから調達した 369 日以内の償還債券の残高に相当する短期債務(レポとリバース・レポの相殺ならびに中央銀行によるリファイナンス分を除く)は、2013 年 6 月 30 日時点の 1,460 億ユーロに対して 2013 年 9 月 30 日時点では 1,500 億ユーロとなりました。短期資金調達額は、2013 年第 2 四半期から第 3 四半期までの期間に 100 億ユーロ増加し、9 月 30 日現在で 1,880 億ユーロに達しました。バランスシート上の流動資産は、9 月 30 日現在で 2,460 億ユーロに達し、同期間に 170 億ユーロ増加しました。

長期の利用可能な資金に対する長期資金調達源の 2013 年 9 月 30 日現在の超過額は、2013 年 6 月 30 日現在を 70 億ユーロ上回る 580 億ユーロでした。長期資金調達源は、2013 年 9 月 30 日現在で合計 8,610 億ユーロであり、資本金(及び類似項目)、顧客関連資金及び長期市場資金で構成されます。これらの資金調達源を合わせると、2013 年度第 2 四半期から第 3 四半期の間に 60 億ユーロ減少しました。有形・無形資産と顧客関連資産に関するファイナンス所要額は、2013 年 9 月 30 日現在で合計 8,030 億ユーロとなり、これも 2013 年度第 2 四半期から第 3 四半期の間に 130 億ユーロ減少しました。

ヘアカット後の流動性準備金は、2013 年度第 2 四半期から第 3 四半期の間に 190 億ユーロ増加し、9 月末現在で 2,520 億ユーロに達しました。この準備金は、短期市場資金を十分にカバーしました(2013 年 6 月 30 日現在の 160%に対して 168%)。

利用可能な流動性準備金は、中央銀行のリファイナンスに関して適格な資産の 510 億ユーロ(欧州中央銀行(ECB)ヘアカット後)、中央銀行への預金(現金と法定準備金を除く)の 720 億ユーロ、及び証券ポートフォリオ(ヘアカット後)の 1,290 億ユーロから成ります。この証券ポートフォリオは、中央銀行のリファイナンスに関して適格な流動性証券の 930 億ユーロ、それ以外の流動性証券の 180 億ユーロ、中央銀行に対して適格な証券化商品及び自行債権証券化商品の同じく 180 億ユーロ(流動化した場合)で構成されました。中央銀行のリファイナンスに関して適格な資産(ECB ヘアカット後)は、10 億ユーロ減少する一方、中央銀行への預金及びヘアカット後の証券ポートフォリオは、2013 年 6 月 30 日から 9 月 30 日までの期間にそれぞれ 140 億ユーロ、60 億ユーロと大幅に増加しました。

クレディ・アグリコル・グループの主要発行体は、2013 年 9 ヶ月累計期間に市場及び支店ネットワークにおいて 226 億ユーロのシニア債を発行しました。クレディ・アグリコル S.A.自体は、2013 年 1 月 1 日から同年 10 月 22 日までに市場で 134 億ユーロを調達し、これにより、120 億ユーロの中・長期年間市場リファイナンス・プログラムを上回りました。クレディ・アグリコル S.A.はまた、2013 年 9 月に 10 億米ドルのコンティンジェント・キャピタルの発行(ティア 2 劣後債)を完了しました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q3-13	Change Q3/Q3	9M-13	Change 9M/9M
Net income accounted for under the equity method (at about 25%)*	232	+10.0%	681	+3.5%
Change in share of reserves	3	nm	153	+0.1%
Share of income from equity affiliates*	235	+11.8%	834	+2.9%

* 2012 年度第 2 四半期は Sacam インターナショナル持分の減損費用-2 億 6,800 万ユーロの変動、2013 年度第 1 四半期は収益の-4,500 万ユーロの変動を修正再表示。

地域銀行は、緩やかな回復段階にある市場で引き続き事業活動を拡大しました。

2013 年 9 月末現在の顧客預金は、オン・バランスシート預金の 3,400 億ユーロ(前年同期比 4.1%増)を含めて、前年同期比 3.2%増の 5,810 億ユーロを記録しました。オン・バランスシート預金の伸びは、非課税貯蓄性預金(2012 年 9 月から 2013 年 9 月までの期間で 11.4%増)と要求払預金(同 3.2%増)によってけん引されました。住宅購入貯蓄プランの預金が前年同期比で緩やかに回復(0.4%増)する一方、定期預金は 0.9%の微減となりました。オフ・バランスシート預金は、生命保険(2012 年 9 月から 2013 年 9 月までの期間で預金型は 3.6%増)及び証券(同 1.9%増)に対する顧客の関心が高まったことにより、2012 年 9 月から 2013 年 9 月までの期間に 1.8%増加しました。

2013 年 9 月 30 日現在のローン残高は、前年比で 0.6%増の 3,970 億ユーロに留まりました。これは、前年比 2.4%増となった住宅ローンによるものです。

2013 年 9 月末現在の預貸比率は更に改善し、前年の 126%から 122%となりました。これは、一方ではオン・バランスシート預金と信用残高の拡大、また、他方では預金供託公庫(Caisse Des Dépôts et Consignation)がもたらす流動性から恩恵を受けました。

2013 年度第 3 四半期の地域銀行の収益(グループ内取引修正後)は、前年同期比で 3.3%増、前 9 ヶ月累計期間比では 3.7%増となるおよそ 35 億ユーロを記録しました。純金利マージンは、主に資金調達費用の低下と早期返済の継続により拡大しました。更に、手数料収入は、2012 年度第 3 四半期と 2013 年度第 3 四半期の間に 1.3%増を記録しました。これは、保険事業のパフォーマンス(前年同期比 2.5%増)によるものです。

2013 年度第 3 四半期の営業費用は、前年同期比 0.7%減の 19 億ユーロとなりました。これは、地域銀行の IT システムの統一化を目的とした NICE プロジェクトの終了と、CICE(競争力・雇用税額控除)の影響によるものです。コスト比率は、前年同期比 2.2%増の 54.8%となりました。

2013 年度第 3 四半期のリスク関連費用は、2012 年 9 月の 16 ベーシス・ポイントに対して 19 ベーシス・ポイントとなる-1 億 8,800 万ユーロとなりました。2013 年 9 月 30 日現在の合計貸倒引当率は、貸出不良債権の 105.7%に達しました。ローン残高全体の不良債権比率は、2012 年 9 月末から 9 ベ

ーシス・ポイント増の 2.5%となり、2013 年 3 月以降は安定しています。

2013 年度第 3 四半期の営業利益は、前年同期比 7.1%増のおよそ 14 億ユーロとなりました。

この結果、2013 年 9 ヶ月累計期間における地域銀行のクレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ
帰属分に対する寄与は、当第 3 四半期の 2 億 3,500 万ユーロを含めて、8 億 3,400 万ユーロとなりました。

1.2. LCL

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-13	Change Q3/Q3	9M-13	Change 9M/9M
Revenues	941	(1.8%)	2,876	(3.2%)
Expenses	(624)	(1.8%)	(1,869)	(0.7%)
Gross operating income	317	(1.9%)	1,007	(7.6%)
Cost of risk	(60)	(33.5%)	(218)	(7.0%)
Operating income	257	+10.3%	789	(7.8%)
Net income on other assets	(1)	x2.3	5	nm
Income before tax	256	+10.2%	794	(7.1%)
Tax	(89)	+14.9%	(276)	(3.6%)
Net income	167	+7.7%	518	(8.9%)
Non-controlling interests	9	+7.8%	26	(8.9%)
Net income Group share	158	+7.7%	492	(8.9%)

LCL は、従前の各四半期に見られた傾向に従って、2013 年度第 3 四半期も堅調な事業実績を維持しました。

2013 年 9 月 30 日現在のローン残高は、前年同期比 1.2%増の 892 億ユーロとなりました。この伸びは主に、2013 年 6 月末現在でそれぞれ前年比 2.5%増、前四半期比 1.2%増となる 560 億ユーロを記録した住宅ローンによるものでした。2013 年 9 月 30 日現在、スモール・ビジネス顧客及び法人顧客向けローンが前年比 1.0%減の 266 億ユーロとなる一方、消費者信用残高は前年比 0.9%減の 66 億ユーロとなりました。

顧客預かり資産は、支店ネットワークの活動の勢いを得て上昇基調を維持し、2013 年 9 月末現在で前年比 4.6%増の 1,631 億ユーロを記録しました。オン・バランスシート預金については、当第 3 四半期に非課税貯蓄性預金の 13.4%増、定期預金の 9.2%増、要求払預金の 3.3%増などを主な要因として前年同期比 7.4%の伸びを記録しました。2013 年度第 3 四半期の要求払預金は、前四半期比で 4.1%増加しました。オフ・バランスシート預金は、2013 年 9 月末現在で残高が 5.8%増の 531 億ユーロに拡大した生命保険への資金流入を主な要因として、前年比 1.6%増となりました。

したがって、預貸比率は前年比で 6%改善して、2013 年 9 月末現在で 109%となりました。

当第 3 四半期の収益は、前年同期比 1.8%減の 9 億 4,100 万ユーロとなりました(住宅購入貯蓄プラン引当金の調整後は 2.3%減)。2012 年 9 月から 2013 年 9 月までの期間の減少は、2012 年度第 1

四半期の住宅購入貯蓄プラン引当金の調整と EIC 返済に伴い、0.9%に抑制されました。こうした堅調な収益は、顧客ビジネスの株式よりも新規組成(new production)の-marginが大きいことを反映している一方で、ローン買戻し(loan repurchases)と早期返済により悪化した低金利の長期化という環境の中で変革margin(transformation margin)が損なわれました。2012 年度第 3 四半期から 2013 年度第 3 四半期までの手数料収入は安定を維持しました(同期間については 0.8%減)。

新規課税額と社会費用の影響を考慮に入れた場合、営業費用は引き続き抑制され、前年同期比で 1.8%減となりました。住宅購入貯蓄プラン引当金の調整により、当第 3 四半期のコスト比率は、前年同期から 0.3%の微増となる 66.6%に低下しました。

2013 年度第 3 四半期の LCL のリスク関連費用は、債務不履行となるローンと関連する特定引当金の減少を反映して、前年同期比 33.5%減の 6,000 万ユーロとなりました。2013 年 9 ヶ月累計期間のリスク関連費用は 7.0%減少しました。不良債権比率はローン残高全体の 2.4%で安定し、また、不良債権引当率(一般引当金を含む)は前四半期の 74.5%に対して 74.6%に維持されました。

全体では、2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、住宅購入貯蓄プラン引当金の調整により、前年同期比 6.2%増の 1 億 5,800 万ユーロでした。2013 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、4 億 9,200 万ユーロとなりました。

2. 国際リテール・バンキング

2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、2012 年度第 3 四半期の 18 億 9,900 万ユーロの損失に対して、1,700 万ユーロとなりました。これには、ギリシャのエンポリキの売却に関連する 17 億 5,800 万ユーロのマイナス寄与分が含まれています。2013 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期の 29 億 8,500 万ユーロの損失(ギリシャに関連する 29 億 9,500 万ユーロのマイナス寄与分を含む)に対して、7,000 万ユーロ(2013 年度第 1 四半期の決算報告書に記載されている通り、カリパルマの 2012 年度決算で計上された 9,100 万ユーロの引当金の調整後)となりました。

(in millions of euros)	Q3-13	Change Q3/Q3*	9M-13	Change 9M/9M*
Revenues	606	(1.8%)	1,813	(2.6%)
Expenses	(369)	(5.4%)	(1,133)	(7.8%)
Gross operating income	237	+4.4%	680	+7.6%
Cost of risk	(121)	+3.4%	(439)	+21.7%
Operating income	116	+5.3%	241	(11.0%)
Equity affiliates	(30)	(83.9%)	(71)	(47.4%)
Net income on other assets	-	nm	17	nm
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	86	nm	187	+40.0%
Tax	(52)	+22.8%	(79)	+11.1%
Net income (after tax) from discontinued activities	3	nm	9	nm
Net income	37	nm	117	nm
Non-controlling interests	20	+40.4%	47	x3.3
Net income Group share	17	nm	70	nm

* 2012 年度は、IFRS 第 5 号に従ってエンポリキの計上分を修正再表示。

イタリアでは、2013 年度第 3 四半期にカリパルマが堅調な業績を達成しました。預金全体は、2012 年 9 月末時点と比べて 2.6%の微減となる 861 億ユーロとなりました。オン・バランスシートの預金残高は、カリパルマによる預金金利の引き下げによって、2012 年 9 月末時点(355 億ユーロ)及び 2013 年 6 月末時点(361 億ユーロ)の実績を下回る 347 億ユーロとなりました。

オフ・バランスシートの預金は、2012 年 9 月末時点で合わせて 7.7%の上昇となる生命保険及び投資信託の伸びによってけん引されました。

ローン総残高は、5.7%縮小した市場で需要低迷が長引く中で前年同期比 1.3%減の 330 億ユーロに留まりました(出典:ABI)。それにもかかわらず、住宅ローンは、2013 年 9 月末現在で前年同期比 2.7%増の 129 億ユーロとなりました。2013 年 9 月 30 日現在の顧客流動性剰余金は 17 億ユーロに達し、イタリアにおける当グループのその他の事業の資金調達に寄与しています。

クレディ・アグリコル S.A.に対するカリパルマの寄与

(in millions of euros)	Q3-13	Change Q3/Q3*	9M-13	Change 9M/9M*
Revenues	395	(1.5%)	1,175	(4.4%)
Expenses	(225)	(6.5%)	(711)	(4.7%)**
Cost of risk	(92)	+6.2%	(295)	+18.4%
Net income	35	(8.2%)	116	(16.5%)
Net income Group share	25	(7.3%)	84	(14.8%)

* 2013 年度第 1 四半期の決算報告書に記載されている通り、カリパルマの 2012 年度決算で計上された引当金を修正再表示。

** 2012 年度第 2 四半期に認識された自主的な早期退職による 5,400 万ユーロの影響額を除く。

カリパルマも健全な経営努力を継続し、2013 年度第 3 四半期には前年比及び前期比で税引前利益が拡大しました。収益は、2013 年度第 3 四半期には前年同期比 1.5%減の 3 億 9,500 万ユーロとなりましたが、2013 年度第 2 四半期を 0.3%上回りました。2013 年度第 3 四半期の費用は、前年同期比で 6.5%減、当 9 ヶ月累計期間では 4.7%減(2012 年度第 2 四半期に認識された自主早期退職制度のコスト(5,400 万ユーロ)を除く)と大幅に減少しました。

リスク関連費用は、引き続き経済情勢の悪化の影響を受けました。2013 年度第 3 四半期は前年同期比で 6.2%増加しましたが、前 2 四半期よりも低下しました¹。2013 年 9 月 30 日現在の不良債権比率は 10.3%で、引当率は 43.7%(一般引当金を含む)となりました。

全体では、2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は 2,500 万ユーロで、2013 年 9 ヶ月累計期間では 8,400 万ユーロとなりました¹。

Calit を含むカリパルマ・グループの純利益は、2013 年度第 3 四半期で 3,500 万ユーロ、2013 年 9 ヶ月累計期間では 1 億 2,000 万ユーロとなりました。

イタリアを除いて、当グループの他の子会社は、ローン残高が 103 億ユーロ、顧客預金が 106 億ユーロとなり、バランスのとれた預貸比率を維持しました。地理的な収益の内訳は、カリパルマを除く欧州の子会社からの寄与が 21%、アフリカと中東の子会社からの寄与が 14%となっています。2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分への寄与は、合計で+2,200 万ユーロ²でした。

¹ 2013 年度第 1 四半期の決算報告に記載の通り、カリパルマの 2012 年度決算で計上された引当金を修正再表示。

² BES からの寄与を除く。

3. 資産管理(SAVINGS MANAGEMENT)

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、資産運用サービスが含まれます。

2013年9月30日現在、当部門の資産運用額は、2012年12月31日時点比で278億ユーロ増の1兆1,244億ユーロ¹となりました。この増加は、当期中の極めてポジティブな市場効果に加えて、堅調な事業展開によるものです。また、2013年度第3四半期のスミス・ブリーデン買収による好ましいスケールメリットも寄与しました(影響額:+47億ユーロ)。マーケット、会計範囲、通貨の影響(合計でプラス227億ユーロ)を除いた場合、この伸びは主に、資産運用部門での11億ユーロ、生命保険部門での48億ユーロのそれぞれの増加に牽引されました。

当部門の2013年度第3四半期の純利益グループ帰属分は3億8,300万ユーロで、2012年度第3四半期比で5.9%減となりました。また、2013年9ヶ月累計期間では11億9,600万ユーロに達しました。

(in millions of euros)	Q3-13	Change Q3/Q3	9M-13	Change 9M/9M
Revenues	1,230	(2.0%)	3,781	(2.0%)
Operating expenses	(610)	+3.6%	(1,847)	+3.6%
Gross operating income	620	(6.9%)	1,934	(6.7%)
Cost of risk	3	(3.2%)	-	nm
Operating income	623	(6.9%)	1,934	(4.3%)
Equity affiliates	1	(71.5%)	11	+44.8%
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Income before tax	624	(7.1%)	1,945	(5.4%)
Tax	(204)	(8.8%)	(631)	(3.2%)
Net income	420	(6.3%)	1,314	(6.4%)
Non-controlling interests	37	(10.3%)	118	(9.9%)
Net income Group share	383	(5.9%)	1,196	(6.1%)

資産運用部門では、アムンディは、資産運用規模が47億ユーロとなる米国のスミス・ブリーデンの買収を完了しました。この買収により、アムンディは、自社の債券商品の範囲を広げると共に、両社間で商品のクロスセリングを拡大することが可能になりました。アムンディは、運用資産を3年間で103億ユーロへと倍増させ、現在では欧州第4位となっているETFなどの商品分野で確固たる地位を占めています。

新規資金流入は、2013年度第3四半期の市場情勢がそれほど好ましくなかったものの、2013年9ヶ月累計期間には+11億ユーロと安定を維持しました。アジアのジョイント・ベンチャーすべてとスミス・ブリーデンを含めると(影響額:+47億ユーロ)、2013年9月末現在の運用資産は7,590億ユーロに

¹ アジアの資産運用のジョイント・ベンチャー100%を含む。

達しました(2012年12月末時点比で2.6%増)。また、+135億ユーロのポジティブな市場効果から恩恵を受けました。

2013年9ヶ月累計期間の新規資金流入は、販売会社、法人顧客(+75億ユーロ)、海外の支店ネットワークセグメント(+23億ユーロ)、及び従業員積立セグメント(+9億ユーロ)によって押し上げられました。また、ロングアセット(57億ユーロ)によってけん引される一方で、マネー・マーケットの資金流入は低金利により悪影響を受けました。2013年9ヶ月累計期間の平均残高は、前年同期比9%増の7,560億ユーロとなりました。

2013年9ヶ月累計期間におけるアムンディの営業総利益は、2012年度比で1.3%¹増という好調な成績を上げました。収益¹は、手数料収入の回復により前9ヶ月累計期間比で1.8%増、前年度第3四半期比で0.5%増をそれぞれ記録しました。2013年9ヶ月累計期間の営業費用は、税制措置の影響を除いて、前期比で1.4%¹増加しました。2013年9月30日時点でのコスト比率は、55.3%と安定を維持しました。

2013年9ヶ月累計期間のアムンディの純利益グループ帰属分は、前年度同期比で4.6%¹増の2億3,300万ユーロで、当第3四半期は7,300億ユーロとなりました。

資産運用サービスでは、**CACEIS**が費用の抑制とダイナミックなマーケティングを継続して展開しました。その結果、預かり資産は前年同期比14.9%増の1兆2,970億ユーロとなりました。カストディー資産は、2013年の預金供託公庫(Caisse des Dépôts)の解約により当第3四半期は減少しましたが、減少率はCACEISの堅調な事業展開によって7.8%に留まりました。

当セグメントの収益は、主に金利低下の影響を受け、2012年度第3四半期から2013年度第3四半期までの期間に9.5%減少しました。営業費用は抑えられて、同期間は0.6%減となりました。

2013年9ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、当第3四半期の3,300万ユーロを含めて1億300万ユーロに達しました。

プライベート・バンキングは、僅かな減少となりました。2013年9月30日現在の運用資産は、2012年12月31日時点比で0.6%増の1,330億ユーロとなりました。これは、好ましい市場影響の恩恵を受け、8億ユーロの純資産流出額を相殺しました。

フランス国内では、預かり資産は2012年12月31日時点比で2.1%増加して617億ユーロとなりました。一方、海外では0.7%減の713億ユーロとなりました。

2013年9ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比8.4%増の9,500万ユーロとなりました。2013年度第3四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比15.9%減の2,600万ユーロに留まりました。

保険部門では、2013年度第3四半期の保険料収入が61億ユーロとなりました。

¹ 2012年度第1四半期中に売却されたハミルトン・レーンの税引前売却益6,000万ユーロと、2013年度第3四半期のスミス・ブリーデンの買収費用を修正再表示。

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-13	Change Q3/Q3	9M-13	Change 9M/9M
Revenues	519	(0.1%)	1,577	(0.8%)
Expenses	(141)	+7.3%	(429)	+10.6%
Gross operating income	378	(2.6%)	1,148	(4.5%)
Cost of risk	-	nm	-	nm
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Tax	(126)	(7.5%)	(380)	+0.5%
Net income	252	(0.4%)	768	(4.1%)
Net income Group share	251	(0.5%)	765	(4.0%)

生命保険では、フランス国内及び海外で引き続き健全な業績を維持しました。2013 年度第 3 四半期のフランス国内の保険料収入は、9%¹というマーケットの平均成長率を上回る前年同期比 22.1%増の 43 億ユーロに達しました。海外での同収入は、同期間に 34.3%²増加しました。同様に生命保険の管理資産も、前年同期比 4.8%²増の 2,324 億ユーロに達しました。ユーロ建て資産は前年同期比 5.3%増の 1,901 億ユーロに達しました。一方、ユニット・リンク型の口座残高は同期間に 2.7%増の 423 億ユーロに達しました。これは管理資産全体の 18.2%に相当します。2013 年 9 ヶ月累計期間の新規流入(純額)は、フランス国内の 36 億ユーロを含めて 48 億ユーロに達しました。

フランスの損害保険では、引き続き堅調な事業展開となりました。2013 年度第 3 四半期の保険料収入は、前年同期比で 5.5%増加し、同期間のマーケット平均成長率である 2.5%³を上回りました。2013 年度第 3 四半期の損害保険の保険料請求に対する支払い件数の割合(全期間、再保険後)は引き続き抑えられ、2012 年度第 3 四半期の 70.6%に対して 71.2%となりました。

2013 年度第 3 四半期の団体信用保険の保険料収入は、2012 年度第 3 四半期の 2 億 4,600 万ユーロから 2 億 2,500 万ユーロへと僅かに減少しました。住宅ローンセグメントでは回復が見られましたが、引き続き消費者金融ビジネスの低迷による影響を受けました。

2012 年度第 3 四半期のギリシャの PSI(民間部門の債務免除)で生じた損失による税額計算上の一時的な影響分(税控除による恩恵を受け、900 万ユーロのコストを削減)を修正後、2013 年度第 3 四半期の営業費用は抑制され、前年同期比 0.4%の微増となりました。2013 年度第 3 四半期と 2013 年 9 ヶ月累計期間のコスト比率はそれぞれ 27.1%、27.2%となりました。

2013 年度第 3 四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、バーゼル 3 による規制に基づいて当グループの資本構造を最適化するための取引に伴う追加ファイナンス費用を反映しています。この取引に関連する費用は、収益に認識されました。この費用は、当第 3 四半期に 2,500 万ユーロに達し、純利益グループ帰属分は 1,800 万ユーロでした。こうした追加費用にもかかわらず、2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期の 2 億 5,200 万ユーロに対して 2 億 5,100 万ユーロと安

¹ 出典: FFSA(2013 年 9 月までの数値)

² 2012 年度の数値は、2012 年度第 2 四半期に BES に売却された BES Vida を修正再表示。

³ 出典: FFSA(2013 年 9 月までの数値)

定した水準にありました。

2013年9ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期の7億9,700万ユーロに対し、7億6,500万ユーロとなりました。尚、前年同期の数字には、BES Vida の持分の BES への売却益である2,800万ユーロが含まれています。

最後に、クレディ・アグリコル・アシュランスは、格付けを持たない企業及び地方当局への革新的な資金融資を引き続き行い、これは、2013年9ヶ月累計期間には20億ユーロに達しました。

4. 専門金融サービス(SPECIALISED FINANCIAL SERVICES)

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-13	Change Q3/Q3	9M-13	Change 9M/9M
Revenues	833	+1.4%	2,484	(5.4%)
Expenses	(394)	(0.6%)	(1,164)	(2.2%)
Gross operating income	439	+3.3%	1,320	(8.1%)
Cost of risk	(352)	(16.6%)	(1,168)	(21.7%)
Operating income	87	nm	152	nm
Equity affiliates	6	+51.7%	20	+44.2%
Income before tax	93	nm	172	nm
Tax	(41)	+52.5%	(93)	+46.6%
Net income	52	nm	79	nm
Non-controlling interests	(11)	(61.6%)	(51)	(64.3%)
Net income Group share	63	nm	130	nm

専門金融サービス部門は、ここ数四半期間に亘り事業適応計画による影響を反映して、当年度初頭より利益率を回復しており、また、主要なビジネス指標(収益と信用残高)は安定してきております。

2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、2012 年度第 3 四半期の 5 億 6,400 万ユーロの損失(消費者金融ののれん減損費用である 5 億 7,200 万ユーロを含む)に対し、6,300 万ユーロとなりました。2013 年 9 ヶ月累計期間の純利益は、前年同期の 5 億 3,600 万ユーロの損失に対し、1 億 3,000 万ユーロとなりました。

事業適応計画の結果として 2012 年度の残高が大幅に下落した後、2013 年度には取引高が安定し、これまでの数四半期と比べて下落幅は抑制されました。残高に対する圧力にもかかわらず、収益は、2013 年度第 3 四半期に前年同期比で 1.4%増となりましたが、2012 年 9 ヶ月累計期間比では 5.4%減となりました。費用削減への取り組みが継続された結果、費用は、2013 年度第 3 四半期については前年同期比 0.6%減、2013 年 9 ヶ月累計期間については同 2.2%減となりました。

更に、リスク関連費用は、イタリアの子会社であるアゴス(Agos)とフランスの状況の改善を反映して前年よりも大きく減少しました(2013 年度第 3 四半期は 16.6%減、2013 年 9 ヶ月累計期間は 21.7%減)。

消費者金融部門では、取扱高と収益は安定を維持しました。CACF の連結ベースの消費者信用残高は前年同期比で 5.3%減少しましたが、2013 年 6 月 30 日から 9 月 30 日までの期間は 1.2%の微減となりました。金額は、2012 年 9 月 30 日現在の 486 億ユーロ、2013 年 6 月 30 日現在の 465 億ユーロに対して 2013 年 9 月 30 日現在では 460 億ユーロとなりました。CACF の合計消費者信用残高は、2013 年 9 月 30 日現在で 718 億ユーロとなりました。残高の地理的な内訳は、前年比でほとんど変動がなく、フランスが 37%、イタリアが 34%(前年は 35%)、その他の欧州諸国が 29%(前年は 28%)でした。アゴス・デュカトの消費者信用残高は、1 年間で 14 億ユーロ減少しました。

2013 年度第 3 四半期の CACF の総営業利益は、2012 年度第 3 四半期とほぼ同水準の 3 億 8,600 万ユーロとなりました。収益は前年同期比 0.1%増の 7 億 300 万ユーロ、営業費用は抑制されて 3 億 1,700 万ユーロとなりました。

イタリア以外では、2013 年度第 3 四半期のリスク関連費用は抑えられ、アゴスを除いた CACF では 162 ペーシス・ポイント(年率)となりました。アゴスでは、2012 年に大規模な引当金が計上されたことを受けて、リスク関連費用は大幅に減少し、2013 年度第 2 四半期の 2 億 2,400 万ユーロに対し、2013 年度第 3 四半期は 2 億 400 万ユーロ、2013 年 9 ヶ月累計期間は 6 億 6,000 万ユーロとなりました。アゴスの不良債権比率は、2013 年 9 月 30 日現在で 16.7%となり、また、不良債権引当率は非常に高く、一般引当金を含めて 98.8%となりました。

2013 年度第 3 四半期の CACF の純利益グループ帰属分は、前年同期比でほぼ 50%増となる +4,800 万ユーロでした。

リース・ファイナンスとファクタリングの業績は、2011 年末以降に当部門の事業が事業適応計画に沿って進められてきたことを反映しています。全体的な取引高の減少は、利ざやが高かったことと費用が厳格に抑えられたことで一部相殺されました。2013 年 9 月 30 日現在のリース・ファイナンスの残高は、2012 年 9 月 30 日時点での 169 億ユーロに対し、160 億ユーロとなりました。ファクタリングについては、2013 年 9 ヶ月累計期間の取引量が、2013 年 9 月 30 日現在で前年同期比 7.0%増の 140 億ユーロとなりました。この結果、当第 3 四半期の両セグメントからの純利益グループ帰属分への寄与は、前四半期と同水準で、前年同期比ではほぼ 2 倍となる+1,500 万ユーロに達しました。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

7月31日にCLSA(台湾事業を除く)のCITICへの売却が完了したことと、ニューエッジの50%持分の売却についてソシエテ・ジェネラルと排他的交渉を開始したことにより、クレディ・アグリコル CIB (CACIB)は、資金調達活動、資本市場、及びアドバイザリー業務への再重点化の最終段階に入りました。2013年度第3四半期のCLSAの売却益は3億2,000万ユーロに達し、純利益グループ帰属分として認識されました。ニューエッジが純利益グループ帰属分に与えた影響は、-1億5,500万ユーロとなりました。

注記:IFRS第5号に基づくニューエッジの再分類調整のため、2012年度と2013年度の数値は修正されています。

継続事業

(in millions of euros)	Q3-13	Change Q3/Q3	9M-13	Change 9M/9M
Revenues	844	(13.5%)	2,713	(11.0%)
- of which DVA	(47)	nm	(86)**	nm
- of which loan hedges	-	nm	15	nm
Restated revenues*	891	(14.7%)	2,784	(10.4%)
Operating expenses	(534)	(2.0%)	(1,603)	(3.0%)
Gross operating income	310	(28.0%)	1,110	(20.6%)
Cost of risk	(124)	+83.1%	(310)	+72.5%
Operating income	186	(48.8%)	800	(34.3%)
Equity affiliates	35	(6.4%)	104	(11.2%)
Net income on other assets	(1)	nm	2	nm
Income before tax	220	(45.0%)	906	(32.2%)
Tax	(91)	+15.0%	(266)	(24.7%)
Net income from discontinued activities	164	nm	157	nm
Net income	293	nm	797	+4.8%
Non-controlling interests	6	+6.7%	18	(14.5%)
Net income Group share	155	(55.9%)	664	(32.9%)
Restated Net income Group share *	287	x2.5	779	+5.4%

* ローン・ヘッジ、CVA/DVA Day 1、及びDVA runningの影響と、証券会社(シュブロー、CLSA、ニューエッジ)に関連する影響に応じて修正再表示。2012年度については事業適応計画の影響を修正再表示。

** 第1四半期のCVA/DVA Day 1の影響(収益の-4,600万ユーロとNIGSの-2,500万ユーロ)を含む。

2013年度第3四半期の継続事業の収益は、2012年度第3四半期比13.5%減の8億4,400万ユーロに留まりました。ローン・ヘッジとDVA runningを調整した後の収益は、市場情勢が非常に好ましかった2012年度第3四半期と比べて資本市場の活動の寄与が大きく減少したために、14.7%減の8億9,100万ユーロとなりました。

CACIB は当第 3 四半期に、競争力のある地位を確立しましたが、これは高い評価を受けている得意分野での専門知識によって築かれたものです。CACIB は、フランスのシンジケーション部門において第 1 位を維持すると共に、EMEA 圏では法人向けローンのシンジケーションで第 2 位となりました¹。また、CACIB は航空機ファイナンス部門でも世界で第 1 位となりました²。資本市場及び投資銀行部門では、欧州 ABCP 証券化の主幹事で第 1 位を維持しました³。最後に、金融機関が発行するユーロ債については世界第 5 位から第 2 位へとランクアップしました⁴。

CACIB は、2013 年度第 3 四半期も費用削減努力を継続し、2012 年度第 3 四半期と比べて 2.0% 減少しました。非継続事業を含めた場合、費用は 8.1% 減少しました。2013 年度第 3 四半期のリスク関連費用は前年同期比で増加しました。これは、一定数のファイルに対する特定引当金と訴訟引当金 (-8,000 万ユーロ) によるものでした。全体では、継続事業の純利益グループ帰属分は、2012 年度第 3 四半期比 2.5% 増の 2 億 8,700 万ユーロとなりました。ローン・ヘッジと DVA running を調整した後の金額は、1 億 5,500 万ユーロとなりました。

2013 年 9 ヶ月累計期間の収益は、上昇基調の市場情勢から恩恵を受けた前年同期から 11.0% 減の 27 億 1,300 万ユーロとなりました。費用は同期間に 3.0% 低下したものの、リスク関連費用は 72.5% 増加しました。全体では、継続事業の純利益グループ帰属分は、IFRS 第 13 号 (CVA/DVA) の初めての適用、DVA running 及びローン・ヘッジによる影響の調整後、2012 年 9 ヶ月累計期間比で 32.9% 減の 6 億 6,400 万ユーロとなりました (シュルプー / CLSA / ニューエッジと事業適応計画による影響額を修正再表示)。

¹ 出典: トムソン・ファイナンシャル

² 出典: トムソン・ファイナンシャル

³ 出典: トムソン・ファイナンシャル

⁴ 出典: トムソン・ファイナンシャル

ファイナンス事業 (Financing activities)

(in millions of euros)	Q3-13	Q3-13*	Change Q3*/Q3*	9M-13	9M-13*	Change 9M*/9M*
Revenues	517	517	(9.0%)	1,535	1,520	(7.9%)
Operating expenses	(228)	(228)	(0.7%)	(678)	(678)	(2.3%)
Gross operating income	289	289	(14.5%)	857	842	(12.0%)
Cost of risk	(34)	(34)	(46.5%)	(205)	(205)	+17.1%
Operating income	255	255	(7.2%)	652	637	(18.5%)
Equity affiliates	35	35	(7.4%)	104	104	(11.2%)
Net income on other assets	(1)	(1)	nm	2	2	nm
Income before tax	289	289	(7.3%)	758	743	(17.3%)
Tax	(90)	(90)	(25.4%)	(207)	(202)	(30.4%)
Net income	199	199	+4.1%	551	541	(11.1%)
Non-controlling interests	4	4	(2.0%)	11	11	(15.2%)
Net income Group share	195	195	+4.2%	540	530	(11.1%)

* ローン・ヘッジを調整後、2012 年は事業適応計画の費用調整前。

2013 年度第 3 四半期のファイナンス事業による収益は、ローン・ヘッジからの影響を受けず、5 億 1,700 万ユーロとなりました。2013 年度第 3 四半期の流動性消費 (liquidity consumption) は、第 2 四半期の 870 億ユーロから 850 億ユーロへと更に低下しました。前年同期比の流動性消費の低下は更に大きく、2012 年度第 3 四半期の 920 億ユーロから 7.7% 減となりました。ストラクチャード・ファイナンスでは、2013 年度第 3 四半期の収益は、ポートフォリオの縮小を受けて取扱高が減少する中で利ざやが維持されたため、前四半期比で僅か 4.9% 減の 2 億 7,200 万ユーロとなりました。2013 年度第 3 四半期の商業銀行部門の収益は、前四半期比 2.5% 増の 2 億 4,500 万ユーロとなりました。

2013 年度第 3 四半期のリスク関連費用は、2012 年度第 3 四半期に記録した 22 ベーシス・ポイントから大幅減の 13 ベーシス・ポイントとなりました。金額で見ると、減少幅は 2012 年度第 3 四半期と比較して 46.5% 減となりました。

全体で見ると、2013 年度第 3 四半期のファイナンス事業の純利益グループ帰属分は、前年同期比 4.2% 増の 1 億 9,500 万ユーロでした。

資本市場及び投資銀行部門 (Capital markets and investment banking)

(in millions of euros)	Q3-13	Q3-13*	Change Q3*/Q3*	9M-13	9M-13*	Change 9M*/9M*
Revenues	327	374	(21.5%)	1,178	1,264	(13.2%)
Operating expenses	(306)	(306)	(2.9%)	(925)	(925)	(3.4%)
Gross operating income	21	68	(57.8%)	253	339	(32.0%)
Cost of risk	(90)	(90)	nm	(105)	(105)	nm
Income before tax	(69)	(22)	nm	148	234	(52.6%)
Tax	(1)	(18)	nm	(59)	(95)	+11.9%
Net income from discontinued activities	164	-	nm	157	-	-
Net income	94	(40)	nm	246	139	(65.9%)
Non-controlling interests	2	-	nm	7	5	(67.1%)
Net income Group share	92	(40)	nm	239	134	(65.9%)

* CVA/DVA Day 1 と DVA running の影響、及び証券会社(シュブルー、CLSA、ニューエッジ)に関連する影響に応じて修正再表示。
2012 年度の数値は事業適応計画の影響を修正再表示。

証券業務 (CLSA ニューヨーク及び東京)からの収益を含む。2012 年度第 3 四半期の 2,200 万ユーロ、2012 年度第 4 四半期の 2,000 万ユーロ、2013 年度第 1 四半期の 2,500 万ユーロ、2013 年度第 2 四半期の 1,700 万ユーロ (CLSA 台湾の収益である 300 万ユーロを含む)など IFRS 第 5 号に基づく 2013 年度第 3 四半期の再分類調整。

2013 年度第 3 四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益は、非常に高い水準だった 2012 年度第 3 四半期から大幅に低下しました(21.5%)。ブローカレッジ業務を除いた場合、当第 3 四半期の減少率は 18.5%となりました。これは、信用サイドでの取扱高の低迷と連邦準備制度理事会の金融政策をめぐるマーケットの不透明感により 2013 年度第 3 四半期に悪影響を受けた債券部門の 20.6%低下によるものです。2013 年度第 3 四半期の投資銀行ビジネス(証券会社を除く)は、収益が前年同期比で 5.4%の伸びを記録して堅調な業績を維持しました。

2013 年 9 月 30 日現在の最大損失予想額 (VaR)は 1,000 万ユーロ、当第 3 四半期中の平均 VaR は 1,200 万ユーロとなり、マーケット・リスクは引き続き低い水準に維持されました。

非継続事業 (Discontinuing operations)

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-13	Change Q3/Q3*	9M-13	Change 9M/9M*
Revenues	12	(83.9%)	115	(19.7%)
Operating expenses	(39)	(49.9%)	(125)	(46.9%)
Gross operating income	(27)	x8.8	(10)	(88.9%)
Cost of risk	(4)	(64.9%)	(33)	(49.5%)
Income before tax	(31)	nm	(43)	(72.7%)
Tax	11	nm	15	(63.6%)
Net income	(20)	+2.5%	(28)	(75.7%)
Non-controlling interests	1	nm	(2)	(91.5%)
Net income Group share	(21)	+8.4%	(26)	(72.3%)

* 2012 年の事業適応計画の影響を修正再表示。

非継続事業の純利益グループ帰属分は、2013 年度第 3 四半期が[€]-2,100 万ユーロ、2013 年 9 ヶ月累計期間が[€]-2,600 万ユーロとなりました。

6. コーポレート・センター (CORPORATE CENTRE)

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-13	Change Q3/Q3	9M-13	Change 9M/9M*
Revenues	(500)	(65.3%)	(1,754)	(24.2%)
Expenses	(236)	+6.1%	(668)	+0.9%
Gross operating income	(736)	(55.7%)	(2,422)	(18.6%)
Cost of risk	5	nm	71	nm
Operating income	(731)	(61.9%)	(2,351)	(27.5%)
Equity affiliates	35	nm	(30)	(69.6%)
Net income on other assets	-	nm	(4)	nm
Income before tax	(696)	(63.8%)	(2,385)	(27.8%)
Tax	335	(52.4%)	920	(2.2%)
Net income	(361)	(70.4%)	(1,465)	(38.0%)
Non-controlling interests	33	+35.0%	117	+2.6%
Net income Group share	(394)	(68.3%)	(1,582)	(36.1%)

* 2012 年度第 1 四半期のハイブリッド債の買戻しによる 8 億 6,400 万ユーロについて修正再表示。

2013 年度第 3 四半期のコーポレート・センターの収益は、2012 年度第 3 四半期の-14 億 4,000 万ユーロに対して-5 億ユーロでした。これには、クレディ・アグリコル CIB の既存社債の再評価と UL 保険契約の再評価(2012 年度第 3 四半期は-10 億 1,700 万ユーロに相当)による 2 億 5,200 万ユーロの損失が含まれています。収益はまた、バンキンターの売却益(1 億 4,300 万ユーロ)とポートフォリオ売却益(7,600 万ユーロ)など、プラスの経常外項目から恩恵を受けました。

2013 年 9 ヶ月累計期間のコーポレート・センターの収益は、2012 年度第 1 四半期のハイブリッド債の買戻しによる影響(8 億 6,400 万ユーロ)を修正して、前年同期比 24.2%減の-17 億 5,400 万ユーロとなりました。

2013 年度第 3 四半期の営業費用は、クレディ・アグリコルの不動産部門における自主早期退職制度に伴う 2,000 万ユーロの引当を含めて、2 億 3,600 万ユーロとなりました。この制度の影響を除いた場合、2013 年度第 3 四半期の営業費用は前年同期比で 2.9%減となりました。

当第 3 四半期の経常外項目には、クレディ・アグリコル S.A.の Eurazeo(「持分法適用会社」)への投資による 6,000 万ユーロという大きな利益も含まれています。

純利益グループ帰属分は-3 億 9,400 万ユーロでした。

発行体のスプレッドを除いた場合、2013 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は-2 億 3,100 万ユーロとなり、また、例外的項目(バンキンターとポートフォリオの売却益、及び Eurazeo への投資利益)を修正すると-4 億 8,300 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2013年9月30日現在の当グループの顧客ローン残高は7,140億ユーロでした。地域銀行、LCL、及び国際リテール・バンキングの子会社のオン・バランスシート預金は、前年比で4.3%増加して4,710億ユーロとなりました。資金調達に関しては、バランスシートの顧客預かり資産が6,350億ユーロに達しました。

<i>(in millions of euros)</i>	Q3-13	Change Q3/Q3*	9M-13	Change 9M/9M*
Revenues	7,659	+11.5%	23,282	(1.4%)
Operating expenses	(4,889)	(1.5%)	(14,619)	(1.3%)
Gross operating income	2,770	+45.3%	8,663	(1.7%)
Cost of risk	(849)	(24.8%)	(3,008)	(12.3%)
Operating income	1,921	x2.5	5,655	+5.0%
Equity affiliates	68	nm	102	nm
Net income on other assets	-	nm	24	(69.9%)
Change in value of goodwill	-	nm	(22)	(96.2%)
Income before tax	1,989	x23.7	5,759	+18.7%
Tax	(635)	x2.5	(1,830)	(8.2%)
Net income (after tax) from discontinued activities	167	nm	166	nm
Net income	1,521	nm	4,095	nm
Non-controlling interests	88	+28.5%	252	+82.5%
Net income Group share	1,433	nm	3,843	nm

* 2012年度の業績は、IFRS第5号に従ったエンボリキ、シュブルー、及びCLSAの計上を修正再表示したものであり、一部のコンプレックス・デリバティブの評価変更を含む。

2013年度第3四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、2012年度第3四半期比11.5%増となる76億5,900万ユーロとなりました。この収益改善は、特にフランス国内のリテール・バンキングと保険門など中核事業の盤石性を主に反映しています。また、事業活動とは直接関係のない特殊要因（バンキーターの残りの持分の売却益（1億4,300万ユーロ）と既存社債の再評価、DVA、及びローン・ヘッジ（2012年度第3四半期の-10億1,700万ユーロに対して-2億9,900万ユーロを含む）の影響も反映しています。

営業費用は、2012年度第3四半期比で1.5%減少しました。この変動は、費用削減プログラムの強化（主にMUSTプログラムによって生じた節減額）とCACIB、CACF、及びカリパルマでの早期退職制度の影響を反映しています。

リスク関連費用は抑えられて、2012年度第3四半期比で24.8%減少しました。2013年度第3四半期のリスク関連費用は、2012年度第3四半期残高の50ベース・ポイントに対して40ベース・ポイントとなりました（エンボリキを除いた場合は41ベース・ポイント）。

2012 年度第 3 四半期の決算には、持分法適用会社として記載されたバンキーターの連結除外に伴う1 億 9,300 万ユーロの借記と、アゴスののれん減損費用である 5 億 7,200 万ユーロが含まれていることにご注意ください。

当第 3 四半期の**非継続事業の純利益**は、CLSA の売却益と IFRS 第 5 号に従ったニューエッジの再分類調整により生じた損失を含めて、1 億 6,700 万ユーロとなりました。2012 年度第 3 四半期の非継続事業の純利益は、CLSA の営業利益とエンポリキ及びシュブルーの売却に伴う損失を含めて-19 億 6,600 万ユーロとなりました。

全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期の-22 億 600 万ユーロに対して、14 億 3,300 万ユーロとなりました。

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the third quarter of 2013 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders under "Financial reporting" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation.

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	+ 33 (0) 1 43 23 26 78	Laurence Gascon	+ 33 (0) 1 57 72 38 63
Nathalie Auzenat	+ 33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+ 33 (0) 1 43 23 06 38
Sébastien Chavane	+ 33 (0) 1 57 72 23 46	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 (0) 1 43 23 15 99
Aleth Degrand	+ 33 (0) 1 43 23 23 81	Aurélie Marboeuf	+ 33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

The figures presented for the nine-month period ending 30 September 2013 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and it has not been audited.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation. Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.